

- 1 団体名 原谷剣道スポーツ少年団
- 2 代表者 浅見真一
- 3 会員数
  - ・一般 男子4名 女子1名
  - ・児童生徒 小学生7名 中学生8名
- 4 稽古日 毎週 月・水・金・土(中学生主体)  
時間 17時30分から19時00分  
但し月曜日は20時30分まで  
場所 秩父市立原谷小学校体育館

## 5 団体の歴史

1972年（S47年）8月1日に発足、原谷小学校体育館にて月・水・金曜日の3日間稽古に励み児童・生徒の健全育成と剣道の普及に貢献するため活動を開始した。

発足当時特に熱心に活動された初代表者の小崎義次氏は、ほぼ休むことなく連日稽古に出席し指導育成に汗を流していた。また同僚であり古くから剣道に携わっていた中村松吉氏も毎日稽古に訪れ小崎氏と2人3脚で稽古に励んでいた姿を思い出す。

当時若手として地元就職していた浅見真一ら数名も先輩諸氏から指導者として誘われ、児童・生徒の育成強化の一翼を担った。

その後小崎・中村両氏が没した後、関根敏朗氏が二代目代表を引き継ぎ、現在は3代目代表として浅見真一が就任現在に至る。

昨今の少子化、生活様式や他の競技等の多様化などで団員の確保に頭を悩ましながら稽古に励んでいる。

発足当時は、団員数も多く体育館が狭く感じるほど集まり、初心者から上級者の指導を分担方式で指導するなど苦労しながら稽古したことが懐かしく思い出される。

特に1980年（S55年）4月に原谷小学校に赴任してきた神辺清作先生(平成2年7段取得)は子供達に「剣道」の魅力を説き更には先生の人間性から、入団者数も多くなり原谷剣道スポーツ少年団の実力を県下に広めるきっかけを築いていただいた事は忘れられない。

現在の主な指導陣は、7段浅見真一、6段柏葉靖夫、5段関根みどり、5段新

井康幸(事務局長)他数名で少数精鋭の中自らの稽古にも励んでいる。

保護者会は小中学生の保護者を中心に組織されており、「若竹会」と命名し発足当時から続いている。現在の会長は黒澤鮎美氏で指導人と意思疎通を図りスムーズに稽古できる体制づくりなどを担っていただいている。(会員数12名)

また、原谷は古くから剣道の盛んな地域で剣聖といわれている高野佐三郎範士の祖父にあたる高野佐吉郎笛正翁は現在の大野原蓼沼地区の堀口家の出身で孫の高野佐三郎範士の剣道を築き上げたことで有名である。(本名堀口佐吉翁は1828年高野家へ養嗣子に入る。)

この事から高野佐三郎範士は、祖父の出身地である大野原に明信館大野原分館を建設し原谷剣道の礎を築いた。

当時の原谷剣道はこの明信館大野原分館を主体に活動し道場主は、高橋熊太郎、岩田金六、岩田嘉平氏と引き継がれる。門下生には荒船愛之助、根岸岩吉、中村松吉氏など多数。(原谷村誌より)

昭和30年原谷剣道は、教士7段の南 濟氏(当時の秩父農業高校教諭)などから指導受け、原谷剣友会を発足させている。

原谷剣友会初代会長には関根一五郎氏(関根敏朗氏父)が就任し原谷在住の多くの仲間たちと各種大会等に参加するなど活動に携わっているものの詳細については分からない。

現在の原谷剣道は、剣聖「高野佐三郎」範士の祖父である高野佐吉郎翁が大野原蓼沼の出身であることから始まり、明信館大野原分館の建設、原谷剣友会の発足、そして今の原谷剣道スポーツ少年団へと移行し継続、数多くの先輩諸氏の力添えにより引き継がれて現在に至っている。

今後も歴史ある原谷剣道を継承していかなければならないと肝に命じ精進を誓う昨今である。